

平成29年度全国学力・学習状況調査からみる本校6学年児童の傾向と改善の方向について

長野市立鍋屋田小学校

校長 田川昌彦

本年4月18日に6学年を対象に全国一斉に実施された「全国学力・学習状況調査」の結果を受けて、本校の傾向と改善の方向についてお知らせします。

この調査の目的は、「義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の結果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取り組みを通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する」ことにあります。公表にあたっては、「調査により測定できるのは学力の特定の一部であること、学校における教育活動の一側面であることなどを踏まえ」た上で、調査結果の分析に基づいた本校の傾向を示し、日々の教育活動や今後の具体的な取り組みについて検討して改善に役立てたいと考えています。

1 全体的な傾向

全体的な傾向

〔国語A：主として知識〕〔国語B：主として活用〕〔算数A：主として知識〕は、正答率が全国平均、長野県平均共に上回り、〔算数B：主として活用に関わる問題〕は、正答率は県平均・全国平均を若干下回りました。

2 教科別の傾向と考察

(1) 【国語】

「必要な内容を整理して書く」、「発言の意図を捉えて聞き自分の考えを深める」が課題

①【話すこと・聞くこと】

「互いの話を聞き、考えの共通点や相違点を整理しながら聞き、進行に沿って話し合う」ことや「自分の考えを広げたり深めたりするための発言の意図を捉える」ことなど、「聞く」に関わる問題の正答率が県や全国と比べやや低くなっています。1分間スピーチや学級討論会など、聞くことと話すことについて学習する機会を意図的・計画的に増やしたり、普段の授業の中でも、相手の話の目的や意図を捉えながら内容を十分に聞き取り、自分の考えと比べ、共通点や相違点、関連して考えたことなどを整理し、自分の考えをまとめて発言できるように指導していきます。

②【書くこと】

「目的や意図に応じ、必要な内容を整理して書く」「内容の中心を明確にして書く」では、正答率が県や全国と比べてやや低くなっています。意見文を書く学習の中で、文章の組み立てを「はじめ」「中」「終わり」に分けて、それぞれの役割を意識して書くこととともに、資料などの根拠を明確にして自分の考えを書く学習を重視して指導していきます。

③【読むこと】

「目的に応じて、文章の中から必要な情報を見つけて読む」ことを意図した問題がA問題で出題されましたが、県や全国の平均に比べよくできていました。俳句の「情景を捉える」問題の正答率も高く、文章の内容を的確に読み取る力が付いていることが分かります。読解の時間を十分確保し、一人一人の読み取りを活かした授業展開を工夫してきた成果と考えます。

④【伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項】

「漢字を読む」「漢字を書く」共に、よくできていました。日々の漢字学習の成果と考えています。今後も漢字や熟語などの意味と使い方を理解し、ドリルなどで定着を図る指導を大切にしていきます。また、「参加たいしょう」の「対象」を書く問題の正答率が、全国や県の傾向と同様に低くなっています。同音異義語の使い方を意識した指導を心がけていきます。

(2)【算数】

「小数の加法・乗法」、「立体の面の位置関係の理解」、「式の意味理解」が課題

①【算数 A】主として知識に関わる問題

◇算数 A 問題の正答率は県平均・全国平均を上回りました。基礎的な問題を繰り返し解いたり、個に応じたきめ細かい指導・支援をしてきた成果と考えています。

課題は、領域別にみると、「数と計算」の領域では「1 より小さい小数をかける乗法の問題場面を理解し、数量の関係を数直線に表すこと」や「小数と整数の加法の計算をすること」が、正答率で県や全国よりやや低くなっています。また、「図形」の領域では、「立方体の面と面の位置関係を理解する」ところで県や全国よりやや低くなっています。

線分図や関係図・数直線などに表して、数量の関係を分かりやすく説明する言語活動を重視したり、展開図を組み立てる等の操作活動を取り入れたりしながら、さらなる学力の向上を目指していきたいと考えています。

②【算数 B】主として活用に関わる問題

◇算数 B 問題の正答率は県平均・全国平均を若干下回りました。

領域別に見ると「数と計算」の領域では「示された条件を基に、適切な式をたてることができる」問題で正答率が県や全国より低くなっています。また、「数量関係」の領域では「割合を比較するという目的に適したグラフを選ぶ」「身近なものに置き換えた基準量と割合を基に、比較量を判断し、その判断の理由を記述する」問題が、正答率で県や全国より低くなっています。今後は、算数の授業の中で、様々な条件を加えた問題や記述式問題を取り入れ、立式する力、判断する力、理由を表現する力を高めるよう指導に力を入れていきます。

無回答の問題の割合が県・全国と比べ低く、限られた時間の中で全ての問題に取り組む力はついていると考えています。

3【児童質問紙からの傾向】

学習環境・学習意欲・学習方法・生活の諸側面に関して、次のような良さと課題があります。

- ◇「自分にはよいところがあると思いますか」の問いで「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」を合わせた割合が高く、県・全国の平均を大幅に上回っています。本校では学校や学級で一人ひとりが位置づけ、がんばりを認めあうような授業や活動を重視してきました。また、各ご家庭で児童の良さを認める声かけが日常的に行われていることが要因と思われます。自己の良さや頑張り、成長や進歩を感じ、自己肯定感が高まるような指導に、引き続き力を入れていきます。
- ◇「学校で好きな授業がありますか」「学級みんなで協力して何かをやり遂げ、うれしかったことがありますか」は、長野県や全国の平均に比べてとても高くなっています。学級や学校生活が充実しており、満足していることが伝わってきます。6 年生は委員会活動や行事の中心になって活動することが多くやりがいを感じていることや、学級や学年でまとまって企画・運営をしていくことで連帯感が増していることが、こうした結果につながっていると思います。これからも児童会活動、行事、異学年交流等を通じて充実感の持てる学校生活にしていきたいと思います。
- ◇「学校のきまりを守っていますか。」「人が困っているときは、進んで助けていますか。」も、長野県や全国の平均に比べてとても高くなっています。児童会が主体となって学校内でのルールを守るよう呼びかける取り組みや、学級内で継続的に友だちどうしの助け合いを認め合う場作りを、進めてきたことが要因の一つであると考えます。
- ◇「家の人と学校での出来事について話をしますか」や「家の人は授業参観や学校の行事に来ますか」の問いに対して、「そう思う」の割合が高くなっており、学校教育に対する保護者の皆様のご理解とご協力があることも、子どもたちの充実した生活や学力の向上にもつながっています。
- ◇テレビゲームや携帯式ゲームをする時間は少なく、学校の授業以外に一日 2 時間以上学習する割合が県・全国を上回っています。また、読書をする時間、ニュースなどを見る時間が多くなっています。家庭でのルール作りや学習環境、生活習慣がきちんとしていて、学力の向上にもつながっていると思われます。

- ◆本年度も「400字詰め原稿用紙2～3枚の感想文や説明文を書くことは難しいと思いますか」の問いに、「そう思う」という回答が多くなっています。引き続き各教科での言語活動を充実させながら書くことを習慣化する指導にも力を入れていきます。
- ◆「昼休みや放課後、学校が休みの日に、本を読んだり借りたりするために、学校図書館・地域の図書館にどれくらい行きますか。」で「ほとんど、または、全く行かない」児童の割合が県・全国と比べて高くなっています。その結果をふまえ、図書館係や児童会で、読書活動や図書館運営を工夫してきたところ、本年度は大分回復傾向にあります。ご家庭でも声がけをよろしくお願いします。
- ◆「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」で、「当てはまらない」と答えた割合が長野県や全国よりもやや高くなっています。人権教育を学校教育活動の中心に据えて指導してきておりますが、人の心の痛みやいじめによる悲しみについては重ねて指導をして参りたいと思います。11月は「なかよし月間」を計画しております。校長講話や人権教育の授業により子どもたちの心に迫って参ります。

以上のように、この調査から見える成果や課題をしっかり受け止め、指導・支援の充実を図り、確かな学力の向上に努めてまいります。

本校の児童は家庭や地域の教育力に支えられて健全に育っており、学校生活も楽しく充実したものになっていると感じています。今後さらに、学校や家庭での過ごし方の振り返りをするとともに、人から言われてやるのではなく、自分から進んで学習する「鍋っ子学習」や「家庭学習」について指導していきたいと考えています。一人ひとりの生活や学習の仕方を見直して改善していくことが、学力の向上とともに健全な育ちにつながっていきます。学校とご家庭との連携を一層取り合っていきたいと思います。ご家庭においても、生活習慣や学習環境、家庭学習の在り方等についてさらなる改善に向けて、ご理解とご協力をお願いいたします。